

CD シンポジウム 2026

進化する校正プラットフォーム

～ AI 活用時代に必要な校正業務の最適化とは～

株式会社 Too



取扱説明書制作を取り巻く現状



変更・更新への対応増加

- 仕様変更・派生機種・多言語展開などに伴い、修正や差し替えが継続的に発生



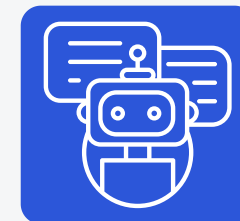
期間は短く、関係者は多い

- 開発サイクル短縮で制作期間が圧縮
- レビュー・承認が複雑化し遅延しやすい



マルチチャネル前提

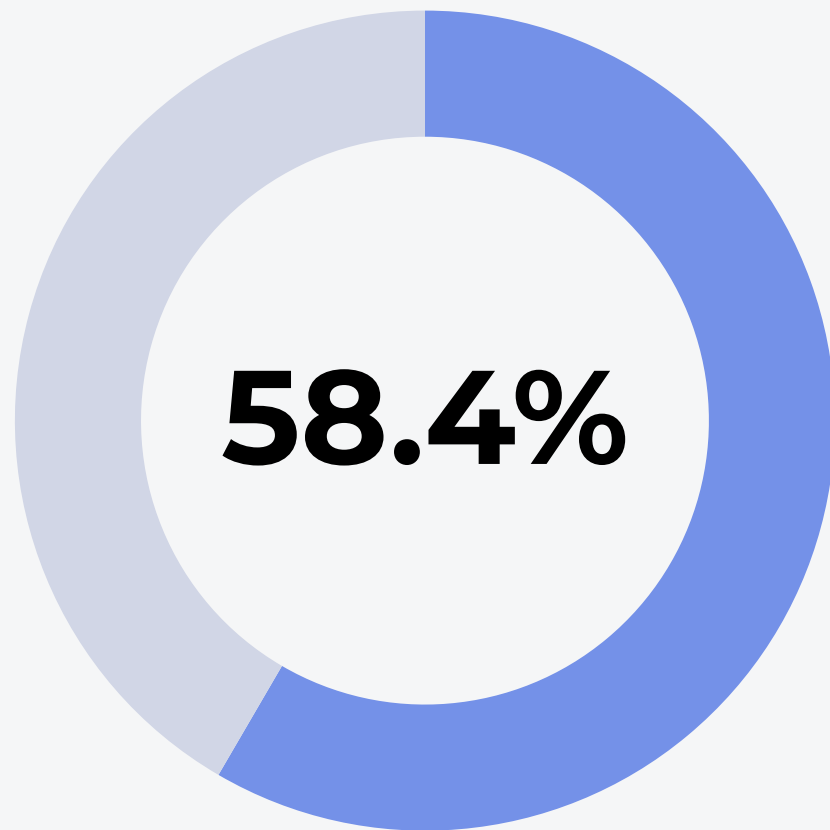
- 紙だけでなく PDF・Web・動画へ展開
- 媒体ごとの整合確認が新たな負荷



AI 活用と品質保証

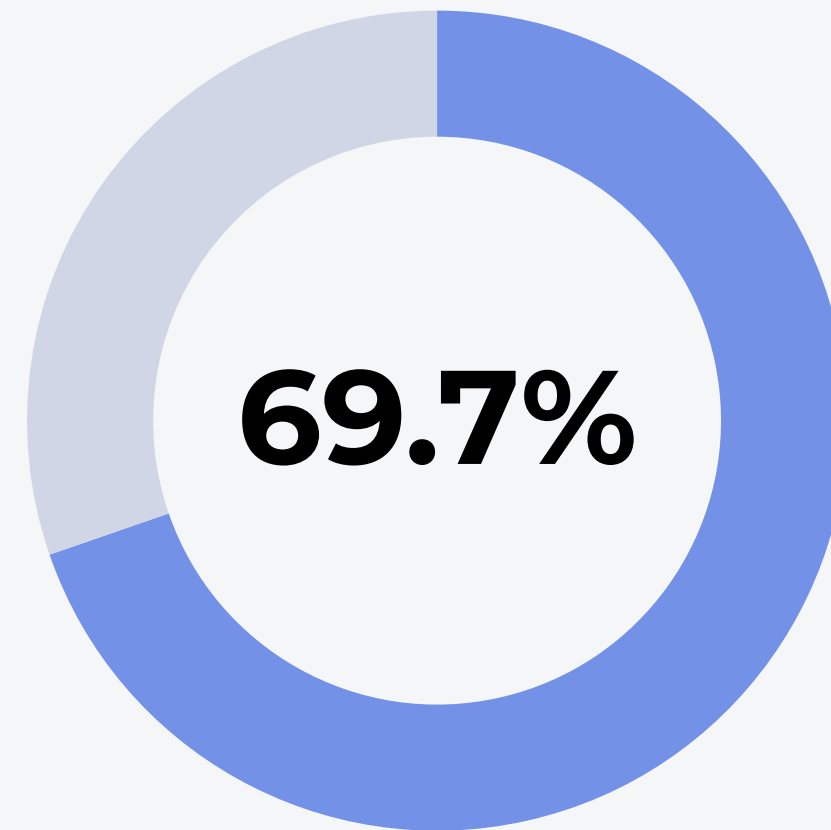
- AI で効率化するほど品質保証が重要
- 「誰が・いつ・何を確認」を残す必要

企業によるAI活用は実装フェーズへ



試作・活用に着手

実証実験・試行導入から事業活用までの合計



全社共通業務で効果を実感

「期待以上」+「期待通り」の回答合計

出展：一般財団法人日本情報経済社会推進協会「企業 IT 利活用動向調査 2026」
<https://www.jipdec.or.jp/library/it-resarch/it-resarch2026.html>

AI×校正のメリット



原稿単体でチェック可能

- 資料が揃う前でも、初稿から指摘を開始
- 修正の手戻りを減らし、制作を前倒し



文脈・意味まで踏まえた指摘

- 分かりにくさ、主語述語の不一致を検出
- 用語ゆれや冗長表現の改善候補も提示



改善案まで出せる

- 問題点の指摘だけでなく、改善後の文章案も提示できる



観点の洗い出しに活用

- 不足項目や想定読者の疑問を列挙できる
- チェックリスト作成を効率化し、抜け漏れ防止

AI×校正の注意点

AI が苦手なこと

- 企業独自の表現や業界用語を正確に理解できない場合がある
- 同じ内容でも使用する AI によって結果が異なる
- プロンプトや指示内容によって精度が大きく変わる
- AI がなぜその判断をしたか、根拠を確認しにくい

人が担うべき役割

文脈・背景を踏まえた最終判断
企業基準・ブランドガイドラインとの整合確認
AI の誤検出・見落としのフォロー
承認・署名などの責任ある意思決定

AI はあくまでも「補助ツール」

精度向上のためには、適切なプロンプト設計と、人によるレビュープロセスの組み合わせが不可欠

校正業務の 3 STEP

1

① 見つける

AI や比較ツールで誤字脱字・差分を自動検出が可能。目視確認の負荷を大幅に削減します。

Proof Checker PRO

2

② 判断する

制作者・技術担当者が内容や表現の正しさをレビューします。人の専門知識と文脈理解が不可欠です。

Ziflow

3

③ 管理する

修正指示・確認状況・承認履歴を一元管理します。「誰が・いつ・何を確認したか」を可視化します。

Ziflow

□ ツールと人の役割を分けることで、効率化と品質保証を両立できます。

校正で【見つける】作業

2つのチェック視点



セルフチェック

- 誤字脱字がないか
- 文章がわかりにくくないか
- 表現が冗長になっていないか
- 用語が揺れていないか 等

原稿単体を読みながら問題の候補を
探す作業は、AI が力を発揮する領域



比較・検版ツール

- 指示通りに修正されているか
- 修正不要な個所まで変わっていないか
- 変更前後の違いを一定の基準で漏れなく検出

柔軟な解釈よりも再現性が求められる
AI でなく比較専用ツールを使用

Proof Checker PRO™

PDF の比較・差分検出に特化した
デジタル校正ツール



長年にわたり、マニュアル制作をはじめとする
さまざまな制作現場でご活用いただいています。

Proof Checker PRO™ の活用方法

新旧 PDF の差分を自動検出

改訂前後を比較し、わかりやすく
確認し、レポートを出力
文字・画像・レイアウトの差異が
確認可能

修正指示の確実な反映確認

結果飲みやすさにより指示箇所が
反映されたかを重点チェック
意図しない改変の混入を早期発見。

目視確認を減らし品質担保

ページ数が多い案件ほど効果が大きい
確認工数を圧縮し、レビューに集中

Proof Checker PRO™ ライセンス



永続プラン

USB ハードウェアキー認証



サブスクリプションプラン

インターネット認証

Proof Checker PRO™ ラインナップ追加情報

Proof Checker PRO サーバー版の利用イメージ



校正業務の 3 STEP

1

① 見つける

AI や比較ツールで誤字脱字・差分を自動検出します。目視確認の負荷を大幅に削減します。

Proof Checker PRO

2

② 判断する

制作者・技術担当者が内容や表現の正しさをレビューします。人の専門知識と文脈理解が不可欠です。

Ziflow

3

③ 管理する

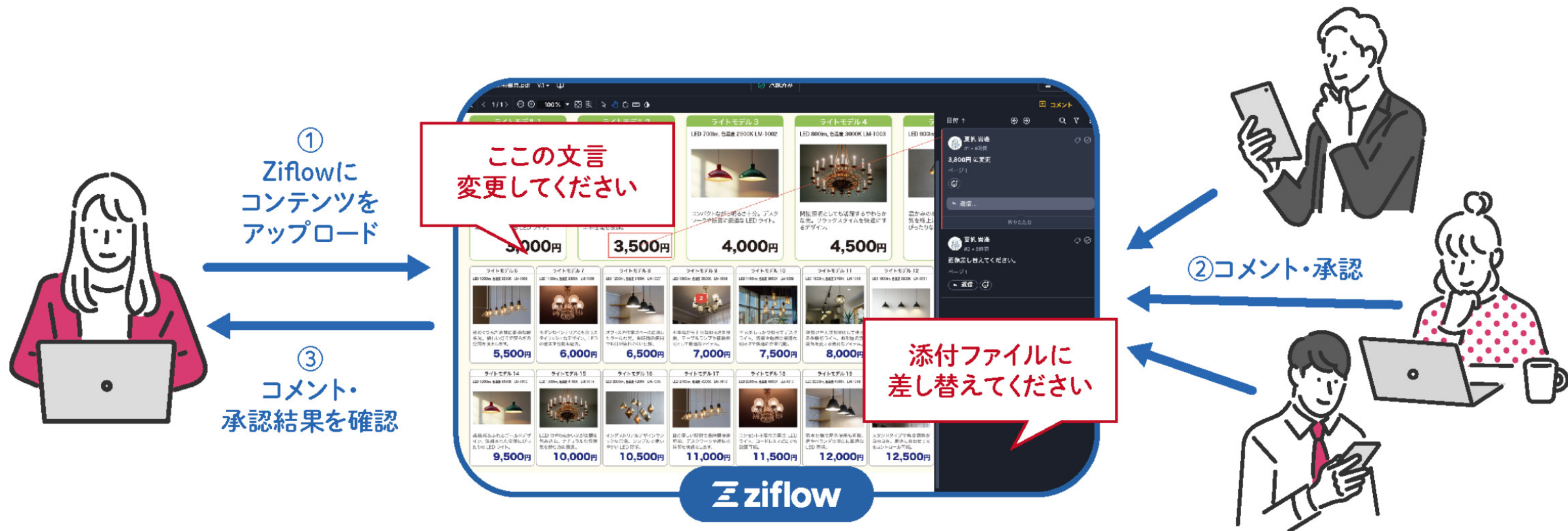
修正指示・確認状況・承認履歴を一元管理します。「誰が・いつ・何を確認したか」を可視化します。

Ziflow

□ ツールと人の役割を分けることで、効率化と品質保証を両立できます。



コンテンツのレビュー・承認に特化した オンライン校正ツール



ziflow の特徴

様々なファイル形式に対応

PDF、Office 文書、動画、Web サイトなど幅広いファイル形式に対応。

柔軟性の高い ワークフロー設計

校正者をステージ分けすることで、プルーフごとに柔軟なワークフロー設計が可能。

容量無制限で 全ての校正を一元管理

ストレージ容量無制限だから、あらゆる制作物をアップロード。校正履歴を保管。

校正者は無料で 何名でも招待可能

コメント・承認を行うだけの校正者はメールアドレスだけで無料で招待可能。

エンタープライズ対応の セキュリティレベル

SOC 2 Type II、ISO27001 を取得。SSO 認証、IP アドレス制限に対応。

他アプリとの豊富な連携機能

Dropbox、Google Drive、Slack、Teams、Asana、Wrikeなどの他アプリと連携。



Ziflow に AI 機能はある？

AI アシスタント

AI を宛先に指定してコメント

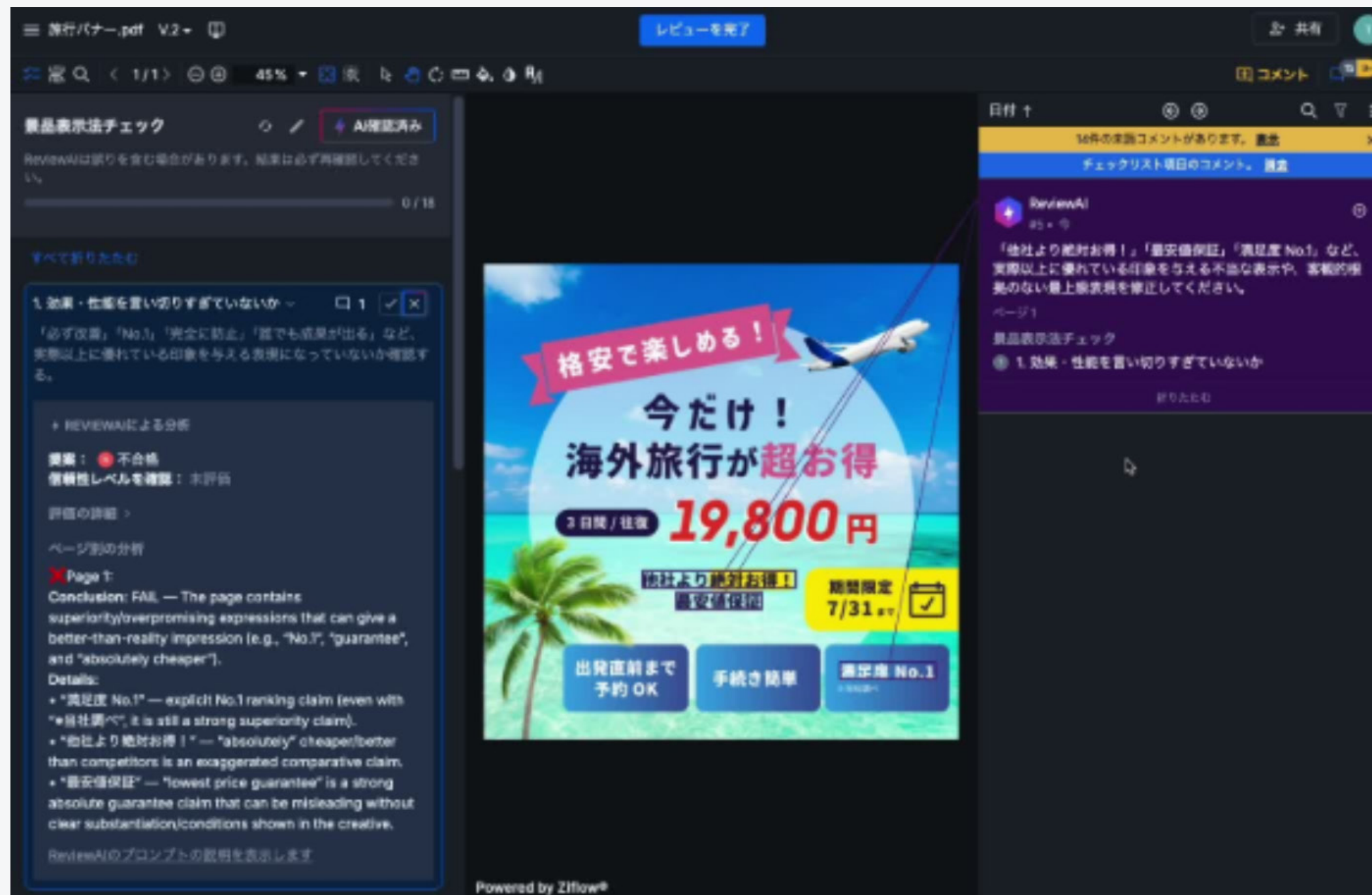


スレッド上で AI が回答

翻訳やアイデア出しで活躍



? Ziflow に AI 機能はある？



📈 今後の開発予定

Review AI

チェックリストを元に
AI が合否を判断



現時点で日本国内展開
については未定

AI時代の校正・レビューに必要なこと

1

AI・ツールで 効率化する

チェックの初動を早める
誤字脱字・差分・確認ポイントを
専用ツールや AI 機能で見つける

2

人が 判断する

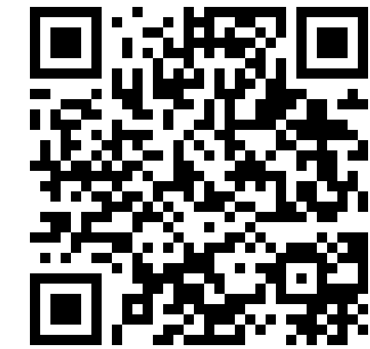
AI の指摘を「正解」にしない
製品知識・文脈・企業基準を踏まえ
人が最終判断する

3

プロセスを 残す

レビュー・修正・承認を一元化
共通のプラットフォームで
「誰が・いつ・何を」確認したかを残す

お申し込みはこちら



TCシンポジウム2026 スペシャルスポンサーデー



\\ 制作・校正のこれからを //

ユーザー事例 と **最新ソリューション**

から考える1日



2026.10.08 (木) 📍 京都リサーチパーク